

## 母子保健における切れ目ない支援の重要性 ～「日本版ネウボラ」導入に向けて母親対象調査からの考察～

ベネッセ教育総合研究所・次世代育成研究室  
持田聖子

2016年、ついに日本の出生数は百万人を下回りました。少子化対策のひとつとして、政府は、「第三次少子化社会対策大綱」で、地域での妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援拠点である「子育て世代包括支援センター」の整備と、産後ケアの充実を目標に掲げています。「子育て世代包括支援センター」は、専門職（保健師、助産師）が、妊産婦の状況を継続的に把握し、必要な相談・支援を行う仕組みです。この制度のモデルとなるのが、フィンランドの「ネウボラ」です。

ベネッセ教育総合研究所では、2015年に、国内全域の生後4ヶ月～11ヶ月の赤ちゃんを持つ母親1,500人を対象に、出産後のサポートの実態と、その後の育児への関連についての質問紙調査（調査名：産前産後の生活とサポートについての調査）を行いました。2017年1月には、フィンランドの「ネウボラ」を視察しました。特別講演では、調査結果から、出産後の生活とサポートの実態とニーズについて当事者の声をお伝えします。また、ネウボラ担当者に対して行ったインタビューから、「日本版ネウボラ」である子育て世代包括支援センターの導入に向けてのキーワードをご紹介します。

出産後の数か月は、母親となった女性にとって、妊娠・出産後の身体を復古させながら、親役割を獲得していく時期です。特に、産褥期（出産後6～8週間）は、十分な休息が必要です。そのため、周囲のサポートが必須になります。調査結果からは、家事や育児のサポートや、母親の身体的な回復のサポートは、主に配偶者や親などの家族が担っていること、母乳ケアや、育児相談などの情緒的サポートは、友人・知人や保健師など家族以外も担っていることがわかりました。こうした出産後のサポートについて、出産前からサポートの準備をした母親の方が、準備をしなかった母親より、サポートに対して、より満足する傾向があることや、満足するサポートを受けた母親は、その後の赤ちゃんの育児に対する自信が高い傾向になることが明らかになりました。

しかし、出産後の生活について、出産前から想像し、準備をすることは、特に初産婦にとっては難しいことです。出産後の生活についての情報収集のために、自治体の媒体や窓口へアクセスをした比率も、1割前後と少ない状況でした。家庭の状況によっては、家族による十分なサポートが期待できないケースもあるでしょう。そのため、妊娠期から、母子保健コーディネーターが、各家庭に合わせたケアプランを作成し、必要な出産後のサポートの準備をしておくことは、意義のあることです。

数十年前から、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援体制を発展させてきたフィンランドでは、99.8%の妊婦が「ネウボラ」という地域の拠点を利用しています。利用者一人一人にかかりつけの担当者（保健師・助産師）がつき、健診、相談、情報提供等が継続して行われます。妊婦の状況に応じ、「ネウボラ」が、他の必要な専門機関を紹介します。筆者が、フィンランドの「ネウボラ」2拠点を訪ね、日本で「ネウボラ」のような制度を展開するとしたらどのようなことを大切にするべきかきいたところ、「利用者が無償（または低負担）で利用できること」、「他機関との連携」、「担当する家族を一貫、継続してみていける体制」という3点が挙がりました。こうした、利用者を中心とした体制の下で、利用者が、担当者と信頼関係を築きながら必要な支援を受けられることが、高い利用率につながっています。切れ目ない継続した支援を行うことで、母子、家族のリスクも早期発見が出来ているそうです。

以上のことから、子育て世代包括支援センター構想では、地域の実情に合わせると共に、妊婦中心の立場で、担当制、丁寧な相談、医療・地域の関連機関との連携が重要であると考えます。また、必要な情報を分かりやすく提供する工夫も必要であると考えます。

#### 【関連情報】

ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトをご覧ください。<http://berd.benesse.jp/jisedai/>

- ・ベネッセ教育総合研究所（2015年）産前産後の生活とサポートについての調査
- ・持田聖子（2015年）ベネッセのオピニオン 第82回子育てのスタート期の母親を支えるために—母親の「休息」サポートの在り方についての考察
- ・持田聖子（2016年）ベネッセ教育総合研究所 次世代育成研究室トピックス 日本版ネウボラ 導入への課題とは～第6回 少子化社会と子育てより 研究員の目～
- ・持田聖子（2017年）ベネッセ教育総合研究所 次世代育成研究室トピックス 「日本版ネウボラ」導入への課題とは その2 ～フィンランド「ネウボラ」視察より研究員の目～

持田聖子（もちだせいこ） 略歴

津田塾大学学芸学部卒業 ニューヨーク大学大学院修了。

ベネッセ教育総合研究所にて、妊娠・出産期から乳幼児をもつ家族を対象とした意識や実態の調査・研究を担当。これまで担当した主な調査は、「妊娠出産子育て基本調査」（2006年・2011年）、「首都圏”待機児童”レポート」（2009年～2011年）「未妊レポート—子どもを持つことについて」（2007～2013年）、「産前産後の生活とサポートについて調査」（2015年）等。

